

環境問題シリーズ 第13章

今からでも遅くない：リニア新幹線は中止すべきである

地球環境に学ぶサークル 河登 一郎

1. リニア新幹線とは

- 1) 品川—名古屋間を約40分（完成予定2027年）、品川—大阪間を約67分（同2045年）で結ぶ構想。
- 2) 時速500kmの超高速で走る。そのための技術として「超伝導」を使う。世界に類を見ない技術である。
- 3) 反面、コストは異常に高く、環境；技術；安全など問題山積のまま工事は2016年に始まった。

2. 問題点

1) 極端に金がかかる。9兆円+αもかかる。過去の例よりその2倍近くかかるのではと言われる。

事業主であるJR東海は最初から「リニア新幹線は儲からない。赤字事業である。」と社長。

元会長の葛西敬之が、安倍元総理と親しいことを利用して、3兆円もの特別融資を引き出した。無担保で30年据え置き、その後の金利は0.8%。この極端な条件は安倍元総理が国会にかけず、閣議にもかけず、独断で決めた。

2) 環境面への配慮が全く不足

ユネスコのエコパークに登録された、南アルプス（生物圏保存地域）を深くトンネルを掘ることで大型自然破壊や動植物への災害などさまざまな問題が生じているが多くの情報は公開されていない。

全ルート90%弱に当たるトンネルを掘った膨大な残土の処分先は殆ど決まっておらず、長さ500m×高さ70m×幅300mも積み上げる。最近問題の「盛り土」のお化けが多数できる。

3) 安全性への配慮が不足

500km/時の強力な磁場には人体に及ぼす「負の影響」があるが、説明はされていない。500km同士のすれ違い（1000kmに達する）の実験も行われていないようである。

南アルプスの中央構造体には複数の活断層が走っている。

大量のセメントが必要になる。石灰岩の山がいくつか崩され、大量のCO₂を排出する。

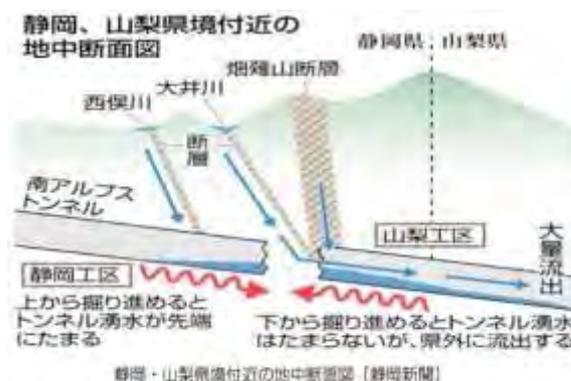
4) 膨大な電力が必要となる

2050年カーボンニュートラルに取ってマイナス。従来の新幹線で必要とされる電力の4~5倍は必要であり、原発2基相当の電力が必要。

5) 静岡県の「水問題」

川勝知事（他）が工事による大井川の水の減量を問題としているが、これに対するJR東海の対応が、非科学的・且つ強権的で未だに了解が取れていない。

安全神話と情報隠蔽は、電力会社とおなじ構造。



6) レアメタル・ヘリウムを大量に使う

ヘリウム生産国は、アメリカ他4カ国のみ。高値/供給不安を生む。

7) 本事業反対訴訟が複数提起されている

国交省のリニア着工認可取り消し訴訟、大深度地下使用許可の無効確認訴訟、大井川流域住民：工事差し止め訴訟、その他。

8) ポストコロナの時代にふさわしくない

今後長期にわたってコロナまたはそれに代わる大災害が継続して襲う時代になっている。

デジタル革命/オンライン会議/リモートワークなど、仕事の進め方も革命的に変化する。このような時代に名古屋まで40分、大阪まで67分の超特急で急ぐ必要があるのか。

仮に完成した場合、東京1極集中が一段と進む←地方分権という時代の要請と逆行している。

元開銀調査部長/アラバマ大学名誉教授橋山氏曰く、「本事業ほど、不確定要因が多く、多くの困難とリスク（経済的・技術的・環境面）を抱えた事業は世界中を探してもまず存在しない。」

3. 今からでも遅くない。このような事業は中止すべきである。

以上のように問題だらけの事業である。しかし事業はスタートして既に5年経過してしまった。経費も1兆円は使ったという。

1兆円ならまだ安い。このまま進めれば、何十兆円も無駄遣いになるよりまだ安い中に中止すべきである。